

鏡齒科新聞

歯列矯正



矯正歯科について

矯正歯科って何？

悪い歯ならびや噛み合わせを、きちんと噛み合うようにして、きれいな歯ならびにする歯科治療です。

しかし、きれいな歯ならびにするために、歯を削って「差し歯」にすることは、基本的にはありません。矯正装置を通じて、歯やアゴの骨に力をかけてゆっくりと動かして、歯ならびと噛み合わせを治していきます。歯がふぞろいだったり、上下のアゴの歯ならびがお互いにちゃんと噛み合わない状態を、専門的には「不正咬合」といいます。

この不正咬合をそのままにしておくと、

- ・食べ物がよく噛めない
 - ・ことばが明瞭でなくなる
 - ・むし歯になりやすい
 - ・歯槽膿漏になりやすい
 - ・口臭の原因になる
 - ・アゴの関節に負担をかける
 - ・歯を折ったり、ケガしやすい
- などの問題がでてきます。



今年冬は、何と言っても冬季オリンピックの話が断然一番でしょうか？

13個のメダルを獲得し、日本中に感動を振りまいてくれました。笑顔あり、涙あり・・・そこにたどり着くまでの個々のドラマがあり辛いとき、苦しいとき共に戦う仲間の励まし、恩師からの言葉で力を貰いまた自分との闘い不屈の精神力と努力頭が下がります。

最後の日に飛び込んできた、女子カーリング銅メダル！

ゲーム中も、場は張りつめていたのですが、互いに笑顔で支え合い輝く笑顔で観戦している皆を和ませてくれました。

内からあふれる笑顔とても眩しかったですね。

これからパラリンピックも始まります。

オリンピックもさることながら、こちらもまた、楽しみですね。選手みなさん頑張ってください。

矯正治療が必要な「不正咬合」

出っ歯（上顎前突）



上の前歯が強く前に傾斜していたり、上の歯ならび全体が前に出て噛んでいます。また下のアゴが小さかったり、後ろにあることで見かけ上、出っ歯に見えることもあります。この状態では、口を楽に閉じることができませんし、顔のケガで前歯を折ったり、くちびるを切ったりしやすいです。またこの噛み合わせにより、下の前歯が上の前歯の裏側の歯ぐきを傷つけていることもあります。

受け口（反対咬合）



下の歯が上の歯より前に出ている噛み合わせです。上下の前歯の傾きに問題がある場合と下のアゴが大きすぎたり上のアゴが小さすぎることによる場合があります。アゴの大きさに問題がある場合、アゴの骨の成長によって変化しますので、成長のメドがたつまで長く追いかけていかなければなりません。うまく噛めないだけでなく、聞き取りにくい話し方になることが多いです。

八重歯・乱ぐい歯（叢生）



歯ならびがデコボコになっている状態を「乱ぐい」といいます。上の糸切り歯が歯ならびから飛び出しているのを、普通「八重歯」と呼びます。欧米では「ドラキュラの歯」と呼ばれ嫌われます。歯がならぶ場所＝骨の大きさとそれぞれの歯の大きさとの間のアンバランスでこのようになります。歯みがきの時に歯ブラシが行き届かずに汚れが残りやすく、虫歯や歯槽膿漏の原因となります。

開咬



噛んでいても、特に前歯が噛み合わない状態です。前歯で食べ物をうまく噛みきることができないだけでなく、正しい発音ができないことが多いです。幼稚園児や小学生になっても、下の写真や図のような指しゃぶりを続けていることが原因になることもあります。他には「舌」の悪い癖や遺伝的な問題も原因となります。